藤沢
エコネット
藤沢環境運動市民連絡会議
（略称）藤沢エコネット

2022年10月1日
第341号

主な記事
- 子どもたちに平和のワークショップ
- 葉山沖のゴンドウクジラ
- 「憲法９条と平和外交」に参加して
- 気候危機はいのちの問題！・国葬反対訴え

http://econet2015.sakura.ne.jp
事務局 e-mail: aoyagipc@jcom.home.ne.jp 青柳
☎／ＦＡＸ　0466－87－4922

人類はおろかな戦争をやっている場合ではない!!　ＣＯＰ27への期待

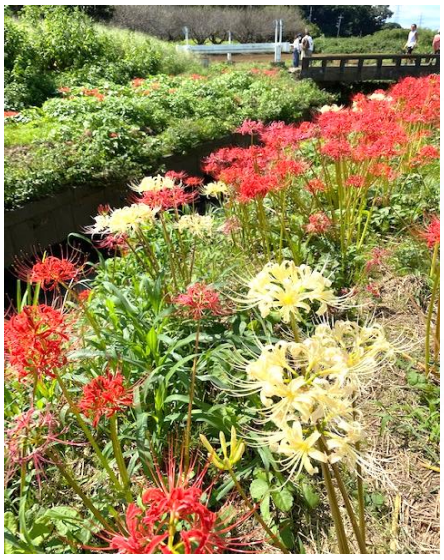
インドのモディ首相は「今の時代は戦争している時代ではない」とプーチン大統領に首脳会談で直言しました。2020年からのパリ協定の本格運用開始も相まって、気候変動対策はルール策定のための交渉から実施へと新たな段階を迎えています。

この11月6日～18日にCOP27(国連気候変動枠組条約第２７回締約国会合)がエジプトで開かれます。気候変動に関する国連枠組条約（UNFCC）のスピノザ事務局長は「COP26から世界の状況は全く変わった。1.5℃達成への道のりは未だ遠く困難。ウクライナ戦争の影響が懸念され、世界のエネルギー市場の混乱、クリーンエネルギーへの投資、そして、食糧危機の発生に直面している。開発途上国の経済のグリーン化を進めるために必要な財源の一部が、他の目的に使われる危険性がある」と述べています。

日本国内ではウクライナ戦争、ウクライナ～台湾有事へのキャンペーンが目立ち、このままでは「力」VS「力」で、外交努力が見えません。台湾有事となれば、日本有事の引き金を引く可能性は否定できない。尖閣周辺海域で、必死で中国公船の侵入阻止に努めてきた元海保長官は「軍事的にエスカレートする事態は日本の憲法も世論も望んでいない。力対力ではなく、法の支配に基づいた対処の重要性が増している。政治、外交、経済で打開策を見つけて欲しい」と述べています。「ＣＯＰ26気候合意」では、最新の科学的知見を取り入れ、気温上昇を1.5℃に抑える努力をすることを決議し、世界が1.5℃を目指して取り組むことが事実上の目標となりました。

一方で、これまでに提出されたNDC（国が決定する貢献）がすべて実行されたとしても、1.5℃目標の達成には遠く及ばないことを認めパリ協定の締約国に対しNDCを2022年末までに提出すること、提出にあたっては2030年目標を再検討・強化し、2022年のＣＯＰ27に新たなNDCを提出することが求められています。

国際的な科学者グループは、1.5℃未満のためには日本は2013年比で2030年までに60%以上の排出削減が必要だと分析しています。これに応えて ①2022年の国別削減目標の再提出に向け、日本を含む先進国として1.5℃目標を目指すことを明確に宣言し、温室効果ガス排出削減目標をさらなる削減の上積みをする。②石炭やその他の主要政策の見直しに着手することにより、世界第5位のCO2排出国である　日本は国際的責務を果たす必要があります。　（編集部）



遠藤　小出川沿いのヒガンバナ

子どもたちと平和を考える

日本画家・山内若菜さんを講師に、8 月 19 日、午前と午後のそれぞれ 2 時間ずつ、子どもを対象に「平和の輪をひろげるワークショップ」をしました。

藤沢市と平和の輪をひろげる実行委員会が主催で、私はその実行委員です。藤沢市は全国に先駆けて「核兵器廃絶平和都市宣言」をもつ自治体です。

山内さんは、はじめに、広島、長崎の原爆のこと、そして福島の原発事故のことを子どもたちに静かに話し、福島の牧場を通して、被災地に何度も行って描いた自分の作品や活動のことをその場で紹介しました。

数え切れない命、平和へ思いをめぐらし、自分の心を描こうと、と呼びかけました。

子どもたちにお話しする山内さん

後半は「動物になった私」を描きます。子どもたちは配られた紙に思い思いの動物を下書きし、筆を持ちました。山内さんは、「いいねえ」「そうだね」「どんな気持ちかな」と、その場をまわりながら子どもたちと対話し、子どもが 1 つ 1 つの絵に、集中して気持ちを吹きこむような時間と空間のようでした。

最後にはそれぞれ発表会をし、どんなことを思って描いたのか聞いてみていました。そこにはすべてを受け入れる山内さんの姿勢がありました。

山内さんの絵はその場に展示されていますが、迫力があり、訴える力を感じました。びっくりするほど無造作に置かれ、さわったりもでき、ごわごわした感触もわかります。立体的な動物はリアルでした。助手もいない、全部ひとりで動き、その力強い行動力には圧倒されました。　　（持田早苗）

気候危機はいのちの問題！

9/23国連総会を前にして、FFF（未来のための金曜日）の呼びかけに応えて世界各地で「世界気候アクション」が取り組まれ、各国の政府や政治指導者に抜本的な気候変動対策を求めた。日本でも「気候危機はいのちの問題」として、各地でアクションが行われ、藤沢でも気候危機アクション藤沢が藤沢駅南口でスタンディングを行いました

9/24 の国連総会でバヌアツのヴロバラブ大統領は「気候変動の議論は時間切れ、今すぐ行動が必要」と「化石燃料の不拡散条約」の締結を国として呼びかけました。この条約は、これまでもロンドン、パリ、トロント、ロサンゼルスなど６８以上の都市や地域などが賛同しています。

日本では、第６次エネルギー計画および地球温暖化対策計画が昨年１０月に決定されました。その内容は

1）積極的に地球温暖化対策を行うことで産業構造や経済社会の変革を目指す。

2）徹底した省エネルギーや再生可能エネルギーの最大限の導入、公共部門や 地域の脱炭素化など、あらゆる分野で、でき得る限りの取組を進める。

3）国土・都市・地域空間における分野横断的な脱炭素化等の取組を着実に実行する。

藤沢市は 2050 年カーボンニュートラルと 2030 年度 46.3% 削減目標の実現は決して容易なものではなく、全ての社会経済活動において脱炭素を主要課題の一つとして位置づけ、持続可能で強靱 な社会経済システムへの転換を進めることが不可欠です。

環境省の「脱炭素先行地域」事業による全国ドミノ倒し戦略では、新しい技術開発を待っていては間に合わない、既存の技術をフル活用し、「地域脱炭素ロードマップ」に基づき全国 100 ヶ所のモデルを募集。第 1 回で 26 地域、第 2 回は締め切られ、藤沢市は第 3 回に応募する予定で、先行地域の選定に入っているようでです(来年 2 月〆切)。

環境省の自治体職員向け再エネセミナーでは、脱炭素社会の実現には環境部署だけでなく、環境・エネルギーの総合政策、企画部門等全てを含めた全庁的な推進体制の基に、全ての利害関係者による合意形成が重要と強調しています。

以上のことから気候非常事態宣言下にある藤沢市では、市民、事業者、行政などが情報を共有し、地域課題を明らかにし、これを解決し、街おこしをめざし市民（自治会等も含む）、事業者（商工会議所、金融機関など）を含めたムーブメントを起こしていくことが期待されます。

（宮地俊作）

「憲法９条と平和外交」に参加して
ふじさわ・九条の会、秋の学習会

９月２３日、藤沢市民会館でふじさわ・九条の会の秋の学習会が開催された。講師は平和問題が専門のフリージャーナリスト布施祐仁氏。テーマは「憲法九条と平和外交」。当日は台風来襲ということで,参加者の出足が心配されたが１００名の参加があり盛況だった。

講演では、ロシアのウクライナ侵攻、アジアにおいて台湾情勢を巡り米中対決が強まる中で、いかにして日本の平和を守るかについて語られた。布施氏の講演では、ウクライナ侵攻以降、日本の国内世論調査でも、防衛費を増やすべきだ、ある程度増やすべきだとの声がたかまっているが、力対力の対決では平和は守れない、平和外交を推進することが大切だということが強調された。

台湾有事にむけて、日米共同行動、防衛費増強、敵基地攻撃等が論議されているが、有事法制の下では、アメリカが戦争を起こせば日本が協力させられることになり、沖縄ばかりでなく米軍基地のある日本全土が巻き込まれることは必至となる。そもそも、日米安保条約は、アメリカにとっては日本を守る為では無く、アメリカの世界戦略の一環と位置付けられているものであり、安保条約は日本を守るという「安全神話」から脱却し、事実に立脚した国民的論議が必要だと述べられた。

講演する布施祐仁さん

７月３０日に実施した日本世論調査会のアンケートでも「軍拡よりも平和外交を」の声が大きく、
①平和にむけた日本が外交に力を注ぐ～３２％、
②戦争放棄を掲げた日本国憲法の遵守～２４％、
③軍備を増強して他国からの侵攻を防ぐ～１５
となっていることが指摘された。

講演の最後に、紙面で参加者から沢山の質問が寄せられたが、時間が無くて応えきれない程盛況だった。

（小林　麻須男）

葉山沖のゴンドウクジラ！

久しぶりにイルカ・クジラを探しに相模湾での探査乗船会を行った。

葉山港を出て５マイル（約９キロ）沖、約１時間ほどの海域で回遊している姿を発見。ほどほどの距離をとりながら観察を行った。しかし、接近して来た時には人が泳ぐのと同じ呼吸音がすぐそばに聞こえ、私達と同じ様に肺で呼吸していることが解る。

群れはおそらく 20～25 頭ほど、2 時間近く同じ海域を行ったり来たり、風と波と彼らの息吹が聞こえる…。

世界から批判の目で見られているあの水族館のイルカショーの姿とは違い、芸もしなければ餌付けして囚われの身なわけではない。海は彼らのフィールドで彼らはそこを自由に泳ぎ生きる権利がある。

相模湾で見ることができる海棲哺乳類の姿、もちろん見ようとしないと見れないもの、ほとんどの人は気が付かないことが多い。

しかし、これが地球だ、私達の海だ。

クジラとヒト、お互い生きている事を確認し合い私達は総帆を上げ、帰港地に向かった。

「子や孫たちにこんな素晴らしい星を残しておいてあげられるだろうか？」
ふと頭をよぎった…。

（NPO 気候危機対策ネットワーク代表
太平洋探査船　VelvetMoon 号船長　武本匡弘）

国葬反対のアピールウォーク 藤沢で訴え

安倍元首相国葬の日９月27日の午後２時に藤沢駅北口サンパール広場に、国葬ノー藤沢アクション主催のアピールウォークに約80人が集まりました。

前半の集会はスピーチでした。国葬は憲法の法の下の平等と思想信条の自由の原則に反する、あるいは、閣議決定には法的根拠も、国会の承認もない。国家予算の支出は不適切。さらに示された国葬費用は過小だ。安倍元首相を国民は評価していない、など。

後半は、サンパール広場から市役所本館前まで、「国葬反対」をアピールしながら全員で歩道を歩きました（写真）。街ゆく市民も反対には理解あったようで、混み合う歩道でのウォークではありましたがスムーズに行えました。

市庁舎に到着して流れ解散のはずでしが、参加者は離れがたく全員の到着を待っていました。市庁舎広場前の「半旗」に向かって、全員でアピールの締めくくりに「国葬反対」と肉声で訴えました。

この「半旗」は藤沢市が前日の26日に市長判断で決めたもの、経緯を秘書課で確認しました。なお事前に複数の市民団体が市長に国葬に出席しないこと、学校など教育関係部署に国葬への対応を要請しないことを申し入れていました。藤沢市で「半旗」を掲げたことは残念ですが、それ以外に対応しなかったことは、世論の力に押されてそれ以上はできなかったことのようです。（ＹＳ）

ECONET　INFORMATION

▲「サマショール（自主帰還者）」上映とトーク

１０月１０日（月祝）10:00-12:30
藤沢市民会館第一展示ホール　当日券 1000円
主催/ 福島の子どもたちとともに・湘南の会
NPO こどもたちに未来を in 湘南
080-5099-4264 青柳

▲気候危機　気候時計でスタンディング
どなたでもＯＫです　子連れ歓迎

10/13(木)16:30-17:30 辻堂駅南口
主催　NPO 気候危機アクション藤沢

▲「いしぶみ」上映

１１月５日（土）13:30-
市民会館第一展示ホール　　参加券 1000円
主催／申込み　ピースリレー・ふじさわ
090-9239-0864 島田　　0466-36-8916 見城

▲震災復興支援コンサート in ふじさわ

藤沢で活躍の合唱団ほかが出演します
11月13日(日)13:30-　参加費 500円
藤沢市民会館第一展示ホール
主催／実行委員会　080-3018-8191 荒井

▲藤沢エコネットから

◆会員募集　年会費・購読料→２０００円
【ゆうちょ銀行　加入者名 藤沢エコネット
口座番号 00240-9-46501】
◆事務局会議 10月1日(土) 10:00～六会公民館

←気候時計です

《編集後記》先月は安倍元首相の国葬で世論が二分し、騒然とする中、教育機関は山口県教委のみが弔意を学校に求め、他県では弔意を強制することがなかったのは、民意尊重をして子ども達のために良かった。いよいよスポーツの秋、文化の秋到来。公民館まつりや趣味の発表会で平和な文化活動を楽しもう。（A）